第 17 回日本在宅医学会もりおか大会　**一般・指定演題**

（研究報告）抄録用紙

演題名 （全角 80 字以内）	高齢 Polypharmacy 患者の薬剤理解度調査
演者名	細井崇弘[1)]、小濵伸太[2)]、髙木博[1)]、木村洋輔[1)]
所属	1)恒貴会　大和クリニック、2)協和調剤薬局

研究方法 （右から番号を選び NO.欄に番号をご記入ください）	1.症例報告　2.症例シリーズ報告　3.コホート研究 4.症例対照研究　5.調査研究　6.介入研究　7.二次研究 8.質的研究　9.その他研究	NO. 5

【目的】近年特に高齢者に対する多剤投与(以下 Polypharmacy)は、転倒リスクの増大との関連や医療費増大の観点から重要な問題となっており、在宅医療においても例外ではない。本研究の目的は在宅医療を行っている高齢患者の薬剤理解度を調査し、Polypharmacy と薬剤理解度の関連を明らかにすることである。

【方法】大和クリニック（茨城県桜川市）にて訪問診療を行っている 65 歳以上の患者のうち、協和調剤薬局にて訪問調剤を提供されている患者を対象とした横断調査を行った。2014 年 8 月 31 日時点で経口薬を定期処方されている患者を抽出し、その内服管理を主に行っている者（患者本人あるいは家族）に対し訪問調剤による定期訪問時に、調査員により「薬剤理解度アンケート」を聞き取り調査にて実施した。なお、内服管理者が認知症である者、コミュニケーション困難者、末期がん患者は除外した。調査内容は①用法・用量「飲み方を覚えていますか？」②薬効「効果を知っていますか？」とした。ただし薬剤は経口薬のみとし、注射（たとえばインスリン注射など）および頓用薬は含めないものとした。 また内服薬 6 種類以上を Polypharmacy 群、5 種類以下を非 Polypharamacy 群と定義した。

【結果】対象者は 57 人（男性 21 人、女性 36 人、平均年齢 84.1 歳）であった。被調査者は、本人 35%、配偶者 33%、嫁 16%、娘 12%、息子 4%で、被調査者の平均年齢は 75.4 歳であった。Polypharmacy 群（以下 P 群）38 人は平均年齢 76.0 歳、非 Polypharamacy 群（以下 N 群）19 人は平均年齢 74.2 歳で、平均服用薬剤数は、P 群 8.6 剤、N 群 3.8 剤であった。薬剤理解度の正答率については、①用法・用量:P 群 58.0%、N 群 81.7%、②薬効:Poly 群 44.0%、非 Poly 群 59.2%で、用法・用量については有意差を認めた（$p<0.05$）。

【考察】在宅医療患者において、高齢 Polypharamacy 患者では特に用法・用量において薬剤理解度が低く、より入念な服薬指導を医師、薬剤師から行う必要がある。今回は当クリニックの患者のみを対象としたが、今後多施設での研究を検討している。